

12 不活化ポリオワクチンの早期導入について

本年に入って、経口生ポリオワクチンによる定期予防接種の接種率が著しく低下している。本年度4～6月の全国の接種者数は前年度比17.5%減少し、関東地方では全国平均を上回る22.4%も減少している。その結果として、未接種者と経口生ポリオワクチン接種者の接触による二次感染や、海外流行地からの輸入感染が懸念される。

厚生労働省では、早ければ平成24年度終わり頃に不活化ポリオワクチンを含む国産4種混合ワクチン等の導入を図るとされている。そこで、次の事項について特段の措置を講じられたい。

不活化ポリオワクチンの国内早期導入を図り、定期予防接種ワクチンに位置づけること。